

ふじた

脳卒中科
脳梗塞チェックリスト
脳梗塞のQ&A
タスカル紹介
Information



F U J I T A H E A L T H U N I V E R S I T Y H O S P I T A L

特集

脳卒中科



脳卒中科スタッフ



脳卒中にはどのような病気がありますか？

脳卒中は、むかしは中風、中気などと言われ、また英語ではストローク(stroke)といいます。いずれも、急に発症する、一撃をくらうなどの意味があります。脳卒中のうち、脳の血管が破れて出血する、脳出血や、くも膜下出血はまさにこのような病気です。突然、激しい頭痛が起こり、下記のような神経の症状が起こり、多くの場合、卒倒します。一方で、脳の血管がつまる、脳梗塞という病気もあります。脳に血液を送る血管がつまってしまい、いろいろな症状が起こりますが、なかには、はじめは症状が軽く、徐々に悪化してくることもあります。ですから、症状が軽いからといって油断してはいけません。また、症状が一時的に起こり、数分から1時間くらいでおさまってしまう一時的な発作もあります。一過性脳虚血発作といいますが、これは脳梗塞の前ぶれのことが多く、放っておくと重症になることもあります。一時的な症状でも、油断せず、すぐに受診していただくことが大事です。



脳梗塞の症状チェックリスト

- 手や足の麻痺、脱力**
急にもっているものを落としたり、手があがらなくなる
- 手や足のしびれ、知覚異常**
多くの場合、半身の持続的な感覚の異常
- 顔がゆがむ**
ろれつがまわらなくなったり、口の片側から物がこぼれる
- 言葉の異常**
頭のなかで思っていることが言葉にならない、言いたいことがいえない
- 眼がみにくい**
視野の片方がみにくい、物が二重にみえる
- めまいや吐き気、からだのバランスがとれない**

これらの症状の原因のすべてが脳梗塞という訳ではありませんが、脳梗塞の可能性のある症状です。とくにこれらの症状が急に起こったときにはすぐに受診しましょう。



脳卒中科のご紹介

「脳卒中科」という診療科の名前は、まだあまり聞き慣れないかもしれません。従来、脳卒中のうち、脳出血や、くも膜下出血は脳神経外科、脳梗塞は脳神経内科が担当することが多く、また、救急車で来院された患者さんはまず救急のドクターが診療を担当することもあります。最近では、カテーテル治療が普及し、脳血管内治療科という診療科ができています。当院では、このような脳卒中の診療を、包括的に

担当し、診療科のみならず、脳卒中にかかわる多職種の部門が、その垣根なく、円滑にチーム医療を行うことができるようなジョイントとして、2016年に「脳卒中科」が開設されました。上記の診療科や院内のいろいろな部門との協力のもとに、ベストオブベストの脳卒中診療をめざして日夜診療にあたっています。



教えて先生!

脳卒中科 教授
中原 一郎 先生

脳梗塞 Q & A

Q1 脳梗塞はどのような症状がありますか?

脳梗塞は、脳に血液を送る血管がせまくなったり、あるいは心臓などにできた血栓が血液の流れにのって脳の血管につまったりすることによって、脳の一部に血液が流れにくくなるため起こります。血液が流れにくくなってしまった脳の場所によって、チェックリストにあげてあるように、運動麻痺、感覚障害、

言語障害、視機能障害などをはじめ、さまざまな脳の働きの低下による症状が起こります。これらの症状は、太い血管がつまった場合には、突然、急激におこりますが、つまりかけた状態の場合には徐々に起こることもあります。一時的に症状がでた後でいったん症状が消失することもあります。

Q2 どのような治療法がありますか?

脳梗塞が起こった場合には、できることならばつまった血管の血液の流れをふたたび再開されることができれば症状が回復することがあります。このためにまず行うのが再開通療法です。この治療には、血管のなかにつまっている血のかたまり(血栓といいます)を溶かす、血栓溶解薬(ティーピーイー：tPAといいます)を点滴したり、足のつけねから、カテーテルという細い管を脳の血管に入れて、血栓をとる治療(血栓回収療法)があります。また、脳梗塞になってしまった脳の損傷をできる限り少なくする治療、脳梗塞の再発を防ぐ治療などが行われます。また、もっとも重要な治療として、リハビリテーションがあります。上記のいろいろな治療は万能ではありません。脳卒中

によって起こった症状が十分に回復せずに後遺症が残ることがしばしばあるのが現実です。このような後遺症をできる限り少なくし、回復させ、家庭復帰、社会復帰をめざすためにもっとも大切な治療がリハビリテーションです。リハビリテーションは脳卒中が起こってしばらくしてから始めるものではありません。脳卒中が起こったら、その日から始まります。そのためにストロークケアユニットという集中治療病棟で、急性期からのリハビリテーションが行われます。当院ではリハビリテーション科によって、世界水準の、質の高いリハビリテーションが行われています。



Q3 脳梗塞の疑いがある場合はどのような行動をとれば良いですか?

上記のように、脳梗塞にはいろいろな治療がありますが、なかでも、つまった血管を通す再開通療法は時間との勝負です。以前はティーピーイーの点滴治療は病気が起こってから3時間以内という制限がありました。現在では、4時間半になっていますし、カテーテル再開通療法は病気の状態によっては、発症から24時間以内までは可能なことがあります。つまった血管の回復が30分早ければ、社会復帰率が10~20%あがるという報告もあります。少しでも早く病気の状態を確認し、治療をはじめることが重要です。ですから、症状が軽くても、とにかくはやく病院に来ていただくことが大切です。脳梗塞のチェックリストにあるような症状が急に起こったときには、すぐに救急車を呼んでください。

F

Face

顔



うまく笑顔が作れますか?

A

Arm

腕



腕を上げたままキープできますか?

S

Speech

言葉



短い文がいつも通りしゃべれますか?

T

Time

すぐ受診



症状に気づいたら、すぐに119番を!

脳梗塞にならない為の予防法

脳梗塞の原因は血管が詰まることです。いろいろな原因があり、稀な病気、特殊な病気が原因のこともあります。おおまかには二つ。

①生活習慣病

糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病は動脈硬化を起こし、脳に血液を送る血管が狭くなる原因となります。これらの病気を治療しましょう。喫煙、肥満、運動不足、過度の飲酒もだめです。脱水症や熱中症も脳梗塞の危険を高めます。水分はこまめにとりましょう。

②心臓の病気

脳はからだのなかでもっとも血液の流れが多い臓器です。心臓やその近くの血管のなかでできた血栓が脳に詰まると重症の脳梗塞になります。なかでも、心房細動という不整脈は、脳梗塞の原因となることが大変多く、持続的でなく、一時的に起こる場合も同様の危険があります。70歳以上など、一定の基準がありますが、症状がなくとも脳梗塞予防のために血液さらさらのお薬の内服が必要です。またお薬を自分の判断でやめるのはもっとも危険です。

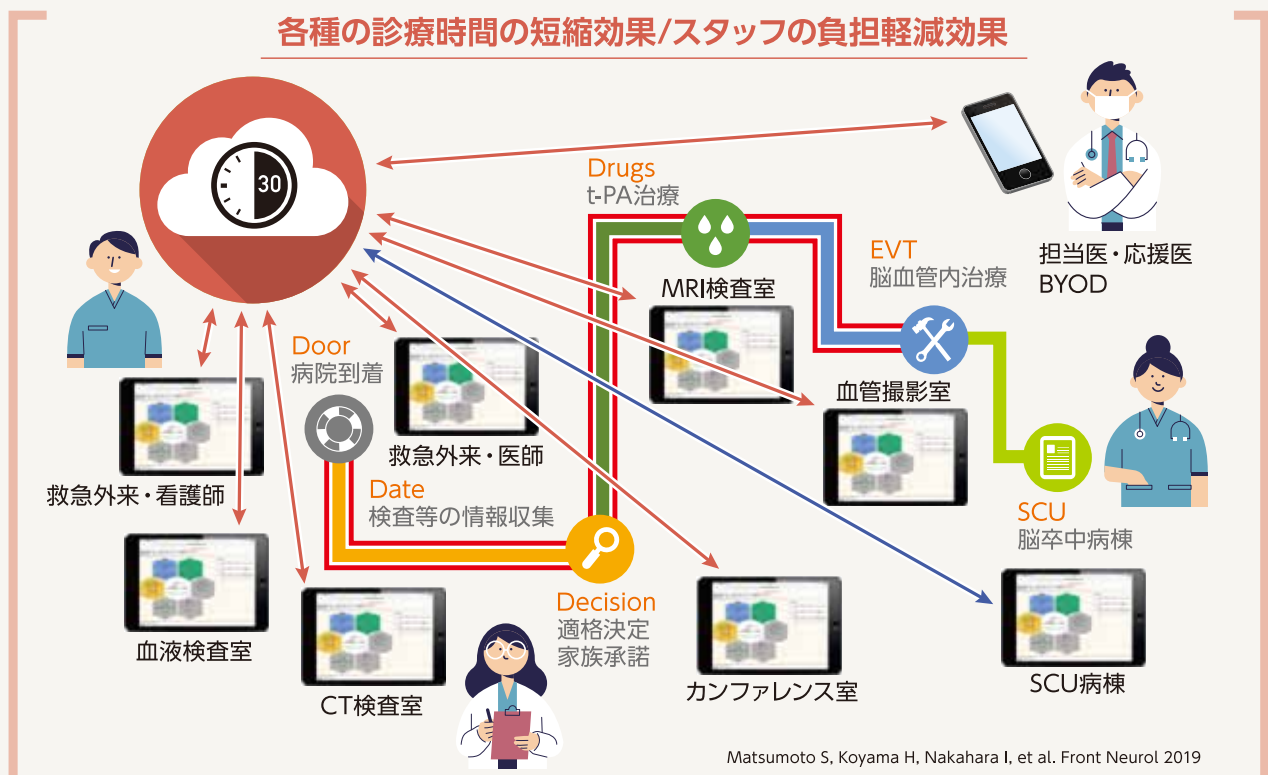


脳卒中急性期診療支援システム Task Calc. Stroke (タスカル) とは

藤田医科大学病院では、救急搬送される脳卒中患者さんの早期治療を実現するため、脳卒中診療ワークフローを整備しています。さらに、ICT(情報通信技術)を用いて院内多部署での情報伝達効率化を図る脳卒中急性期診療支援システム Task Calc. Stroke (タスカル) を2019年6月18日より導入し、実証試験を行なっています。本システムは脳卒中科の松本教授が中心となり、東京都立産業技術大学院大学、九州大学神経内科学教室と共同開発したもので、すべての脳卒中治療の院内関係者にワンクリックで一斉連絡が行え、かつ検査等の進捗状況の同時共有ができる画期的な仕組みで、より迅速な治療提供が可能になります(下図)。今後、タスカルを普及させることで、全国の脳卒中患者さんを救うプロジェクトも計画中です。



各種の診療時間の短縮効果/スタッフの負担軽減効果



第40回 肝臓病教室Web配信

12月上旬 配信予定！

● C型肝炎と脂肪肝について (医師 川部 直人)

● 肝臓病の薬について (薬剤師 加藤 滉基)



※配信日は「肝疾患相談室」のページにてご案内いたします。



藤田 肝疾患相談室

検索



COVID-19 最新情報

当院でのコロナ感染症についての最新情報についてHPでもご案内しております。



Recipe
14

食材 鮭

骨粗しょう症予防のために

骨粗しょう症は長年の生活習慣や、女性ホルモンのひとつであるエストロゲンの分泌減少が原因で骨がもろくなり、骨折しやすくなる病気です。骨粗しょう症予防のために、食事においてはカルシウム、たんぱく質、ビタミンD、ビタミンKをしっかり摂る事が大切です。鮭には良質なたんぱく質が含まれており、骨の質を高めるコラーゲンの材料になります。きのこ類にはビタミンD、ほうれん草にはビタミンKが豊富に含まれており、カルシウムの吸収を助けてくれます。



食養部が提案する！

鮭とほうれん草のクリームパスタ

材料 【2人分】

- 塩鮭 ……………2切れ(140g)
- パスタ ……………2束(200g)
- ほうれん草 ……………1/2束(100g)
- しめじ ……………1/2株(100g)
- にんにくチューブ ……………小さじ2
- オリーブオイル ……………小さじ1
- ★ [牛乳 ……………300ml
- [コンソメ顆粒 ……………小さじ1
- 粉チーズ ……………20g
- 小麦粉 ……………大さじ1
- 黒胡椒 ……………適量

おおよその栄養価 (1人分)

エネルギー	524 kcal
たんぱく質	33.3 g
塩分	2.3 g
カルシウム	340 mg

作り方

- 1 鮭は骨と皮を取り除き、食べやすい大きさに切る。しめじは石づきをとってほぐしておく。
- 2 沸騰したお湯にほうれん草を根元から入れて30秒ほど茹で、葉の部分を入れてさらに30秒茹でる。茹で終わったら流水で冷やし、水気を絞って食べやすい大きさに切る。
- 3 別の沸騰したお湯に塩を入れて、パスタをパッケージの表記通りに茹で、ザルにあげて水を切る。
- 4 フライパンにオリーブオイル、にんにくチューブを入れて加熱し、にんにくの香りが立ったら鮭、しめじを加えて中火でソテーする。
- 5 鮭に火が通ったら小麦粉を加えて、粉っぽさがなくなるまで炒める。
- 6 ★を加えてかき混ぜ、とろみがついてきたら粉チーズ、②を加え、軽く混ぜたら火を止める。
- 7 器にパスタを盛り付け、⑥のソースをかける。
- 8 お好みで黒胡椒を振りかける。

食養部：管理栄養士 中村、調理師 渡邊